13 元日の地震体験Ⅱ

（川崎さん）

家の方まで津波が来ていた状況でした。在郷の人たちが高台に集まってきて、これからどうしよう。電話も通じません。電気もつかない。天候は悪くなる。寒さは増す。さあ、どうすると、言った時に、それぞれが、その状況下にあってでも、一旦、家に帰り、たとえば毛布だとか、使い捨てカイロだとか、持ち寄って、自然にみんなで協力し合っていました。

何とかして、寒さをしのぐ体制を、誰ともなしに声かけせずに、自然とそういう形が仕上がり、何とか時間を過ごすことができたのです。が、ようやく、地区の区長さんなりが先頭になって「移動してください。地区の集会場に行きましょう」と。

地区の集会場に行くとなった時に、母親はなんとか歩けるので、なんとか中に入れるのですが、私は車いすなので畳の和室に車いすであがって、体を休めることはできませんので、とりあえず、その夜は、車いすで廊下に寄せて頂き、毛布を一枚を頂いて、それをかぶって一晩過ごしました。

食事はその日の夜は、確か菓子パンだけだったかな。あとは、ジュースか、お茶か、その程度のものが、遅くに配布されました。翌朝、とりあえず何とか、しなくちゃならん。自分のトイレもしたいし。ずっと夜は、我慢をしていたので、家に行って何とかしようと思いました。夜明けを待って車いすでトボトボと自宅まで帰り、幸い車が無事だったので車に乗って集会場に戻りました。

だけども、集会場に入るのは当然できませんでしたので、車の中で、その日から一週間過ごすことになりました。食事の方は、集会場で配布されるものを、皆さんが代わる代わる車の方に持ってきてくださいました。

困ったことはトイレ。一応、いつもライフサポートの方のディサービス、ショートは利用していましたので、その分の着替えと、その他の物は、車の座席スペースに積んでありました。それも一晩分だけですので、それをなんとか使って、３日目、４日目になったら支援物資で、たとえばリハビリパンツだとか靴下だとか、そういうものが入手できたので、それを使わせていただいて３日、４日頑張ってみたのですが、